

第666回北里医学会招待学術講演会

(H28.2.9)

Clinical Anatomy in the 21st Century
- the Tübingen Perspective

Thomas Shiozawa 先生

(Lehrbeauftragter, Facharzt für Anatomie, Institut für
Klinische Anatomie, Universität Tübingen, Germany・
講師)

540年の歴史を持つTübingen大学医学部の解剖学は、21世紀を迎え、大きな変貌を遂げた。新しく創設された“Clinical Anatomy”は、「21世紀の医学生にふさわしい教授法と卒後教育の改革」を念頭に、解剖学を現代的に発展させた。ヒトcadaverの利用に加え、マルチメディアとネットワークツールを教育に取り入れたことにより、医学生は、自らの手で基礎科学を応用する事が可能になった。Tübingen大学のClinical Anatomy教授法が、世界に広まる事を切望する。

第671回北里医学会招待学術講演会

(H28.3.24)

もしも「死にたい」と言われたら
—自殺リスクの評価と対応—

松本 俊彦 先生

(独立行政法人 国立精神・神経医療研究センター
精神保健研究所自殺予防総合対策センター
副センター長/
薬物依存研究部診療治療開発研究室長)

「死にたい」と誰かに告げることは「死にたいくらいつらい」ということであり、もしも、このつらさを少しでもやわらげることができるならば「本当は生きたい」という意味なのである。

精神科のみならず、他の診療科、医療スタッフ、患者を取りまく人々に向け、この難しいテーマに取り組んできた松本俊彦先生に、これまでの経験と知識をもとにご講演いただきます。